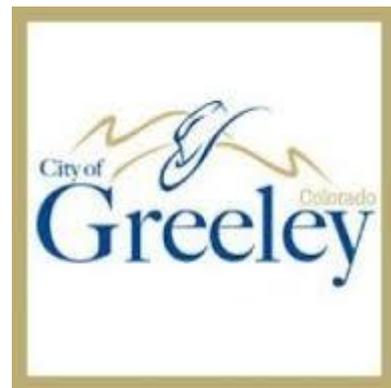


# 2016

## 第26回守谷市青少年海外派遣事業報告書

平成28年7月28日(木)～8月4日(木)



## 守谷市



# 目 次

● 守谷市長あいさつ	1
● 守谷市国際交流協会会長あいさつ	2
● 第26回守谷市青少年海外派遣団員名簿	3
● 事前・事後研修日程	4~5
● 海外派遣日程	6
● ホストファミリー名簿	7
● アメリカ・グリーリー市周辺地図	8
● 思い出の日記	9~17
● 派遣団員報告書	18~46
● 編集後記	47



## 夢に向かって

守谷市長 会田 真一

第26回守谷市青少年海外派遣も、多くの皆様の御協力により無事に終了いたしました。グリーリー市への青少年の派遣は、この夏で15回目となりました。ノートン市長はじめ、派遣団を快く迎えてくださったグリーリー市民の皆様、また、ホストファミリーの中には以前にも団員を受入れてくださった方も見受けられ、いつもと変わらぬ温かいおもてなしに、心より感謝の意を表したいと思います。

今回、参加された皆さんは、ホストファミリーの優しさ、温かさに包まれて有意義な日々を過ごし、グリーリー市民の心からの歓迎に触れ、多くの人たちへの感謝の気持ち、意思を伝え合うことの喜びと大切さ、そして言語を越えた人の繋がりを改めて感じたことでしょう。また、コロラドの大自然の中で過ごすことでアメリカの広大さを実感できたかと思います。

団員の皆さんにはこの8日間を通じて得た貴重な体験をいかし、自らの夢の実現に向かって歩いていってもらいたいと思います。そして、今後もホストファミリーとの交流を大切にいただき、異文化への理解と友情の絆をより一層深められることを期待しております。

最後になりましたが、本事業を実施するにあたり御協力をいただきました守谷市国際交流協会をはじめとする関係者の皆様に心から感謝申し上げ、御挨拶といたします。



## 友好の架け橋へ

守谷市国際交流協会会長 小川 一成

第26回守谷市青少年海外派遣事業が、無事成功のうちに終わられたこと  
をお喜び申し上げます。

平成2年にこの事業が始まって以来、守谷市国際交流協会としましても全  
面的に支援、協力してまいりました。それは、当協会が目標とする市民の交  
流を通しての国際交流という観点にこの事業が合致しているためであります。

守谷市の代表として、何事も素直に順応できる10代にアメリカの異文化  
や大自然、それ以上に異国の方々との心と心の触れ合いを感じてきたことは、  
このうえない財産となったことでしょう。今回、グリーリー市を訪問した皆  
さんは市民の気持ちに触れ、アメリカという国に好印象を抱くとともに、お  
世話になったホストファミリーに対し、感謝の気持ちとともに帰国したこと  
と思います。是非、グリーリー市民の方々に来日する際には、守谷市のホス  
トファミリーに参加していただき、イベント等にも参加をお願いしたいと考  
えております。

当協会は、今後も異文化体験の機会を増やし、より広い視野をもって物事  
を捉え、考えることのできる素晴らしい好機を提供するお手伝いを続けてま  
いります。

最後になりましたが、守谷市と姉妹都市グリーリー市との交流が益々発展  
することを祈念申し上げ、御挨拶と致します。

## 第26回守谷市青少年海外派遣団員名簿

### ● 団員

氏名		学校名	学年
水口 柚奈	みずぐち ゆな	東洋大学附属牛久高等学校	高3
永野 礼菜	ながの れいな	茨城県立竹園高等学校	高2
齊藤 緋里	さいとう あかり	茨城県立並木中等教育学校	高2
須藤 佑斗	すどう ゆうと	茨城県立水海道第一高等学校	高1
久保田 みなみ	くぼた みなみ	茨城県立下妻第一高等学校	高1
北島 結菜	きたじま ゆうな	茨城県立水海道第一高等学校	高1
根来 由依	ねごろ ゆい	茨城県立竹園高等学校	高1
長塚 望愛	ながつか のあ	守谷市立御所ヶ丘中学校	中3
大宮 琴奈	おおみや ことな	茗溪学園中学校	中2
福岡 芽依	ふくおか めい	守谷市立けやき台中学校	中2
大倉 波奈	おおくら はな	守谷市立けやき台中学校	中1
松井 颯音	まつい はやと	守谷市立守谷中学校	中1

### ● 引率者

氏名		所属
鈴木 亮子	すずき りょうこ	守谷市国際交流協会
江口 和也	えぐち かずや	守谷市役所総務部財政課

## H28青少年海外派遣事業 事前研修カリキュラム

月 日	(曜)	時間	内容	場所
6 月 11 日	土	13:30～	オリエンテーション	市役所大会 議室
		14:00～	自己紹介 海外派遣のルールについて	
		15:00～	講話(「海外派遣に参加する君へ」講師:市国際交流協会会 長)	
		15:30～	☆ 過去の派遣団長・団員からの体験談を聞こう! ☆	
		17:30～	夕食(お好み焼きづくりをマスターしよう!)	
		19:30～	ミーティング(リーダー・報告書分担)	いこいの郷
		20:00～	ミーティング(フェアウェルパーティー)	
		21:00～	入浴・就寝	
6 月 12 日	日	7:30～	朝食	市役所大会 議室
		8:45～	市役所へ移動	
		9:00～	基本的な英語表現①	
		10:00～	☆ アメリカの習慣・文化 ☆	
		11:00～	ミーティング(フェアウェルパーティー)	
		12:00～	昼食	
		13:00～	ミーティング(フェアウェルパーティー)	
		15:00～	休憩	
		15:30～	ホームステイマナーを知ろう!	
		16:30～ 17:00	諸連絡(宿題・次回の研修等)	

月日	(曜)	時間	内容	場所
6月26日	日	9:00～	こんな時どうする!?	市役所大会 議室
		10:00～	基本的な英語表現②	
		11:00～	自分の家族を英語で紹介しよう!	
		12:00～	昼食	
		13:00～	ミーティング(フェアウェルパーティー)	
		15:00～	☆ 多文化共生社会とは～地域に暮らす在留外国人と話してみよう～ ☆	
		16:30～	サンキューメッセージについて	
		16:45～ 17:00	諸連絡(宿題・次回の研修等)	
7月10日	日	9:00～	基本的な英語表現③	市役所大会 議室
		10:00～	☆ 海外旅行で気を付けること ☆	
		11:00～	サンキューメッセージについて	
		12:00～	昼食	
		13:00～	フェアウェルパーティーの練習	
		16:45～	諸連絡(宿題・次回の研修等)	
7月24日	日	9:00～	サンキューメッセージ・フェアウェルパーティーの練習	市役所大会 議室
		11:00～	添乗員紹介・海外旅行のワンポイントレッスン	
		12:00～	昼食	
		13:00～	フェアウェルパーティーの練習	
		16:00～	研修内容のまとめ	
		16:45～ 17:00	諸連絡(荷作り・出発日スケジュール等)	
8月20日	日	9:30～	反省会	
		10:40～	解散式	

☆印は特別講師による研修です。

## 海外派遣日程

日程	プログラム
7/28(木)	壮行会→成田空港へ出発→成田空港→空路（ロサンゼルス）へ →ロサンゼルス着→空路（デンバー）へ→デンバー空港到着 →夕食→ホテルへ
7/29(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北コロラド大学見学ツアー</li> <li>・鉄道模型博物館</li> <li>・アーツピクニック</li> </ul>
7/30(土)	終日ホームステイ
7/31(日)	終日ホームステイ
8/1(月)	ファミリーファンプレックス (ミニゴルフ, BBQ, プール)
8/2(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セラピーホース触れ合い体験</li> <li>・ショッピング</li> <li>・フェアウェルパーティー（お別れパーティー）</li> </ul>
8/3(水)	デンバー空港へ→空路（シアトル）へ→シアトル着 →空路（成田）へ <span style="float: right;">（機内泊）</span>
8/4(木)	成田到着後，バスで市役所へ→市役所到着→帰国報告会→解散

## ホストファミリー名簿

団員氏名	ホストファミリー
水口 柚奈	Rodriguez Family
永野 礼菜	Hare Family
齊藤 緋里	Thurman Family
須藤 佑斗	Cassedy Family
久保田 みなみ	Lyons Family
北島 結菜	Crylen Family
根来 由依	Noel Family
長塚 望愛	Scott Family
大宮 琴奈	Haring Family
福岡 芽依	Gamblin Family
大倉 波奈	Gibson Family
松井 颯音	Looschen Family

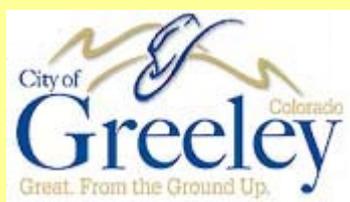
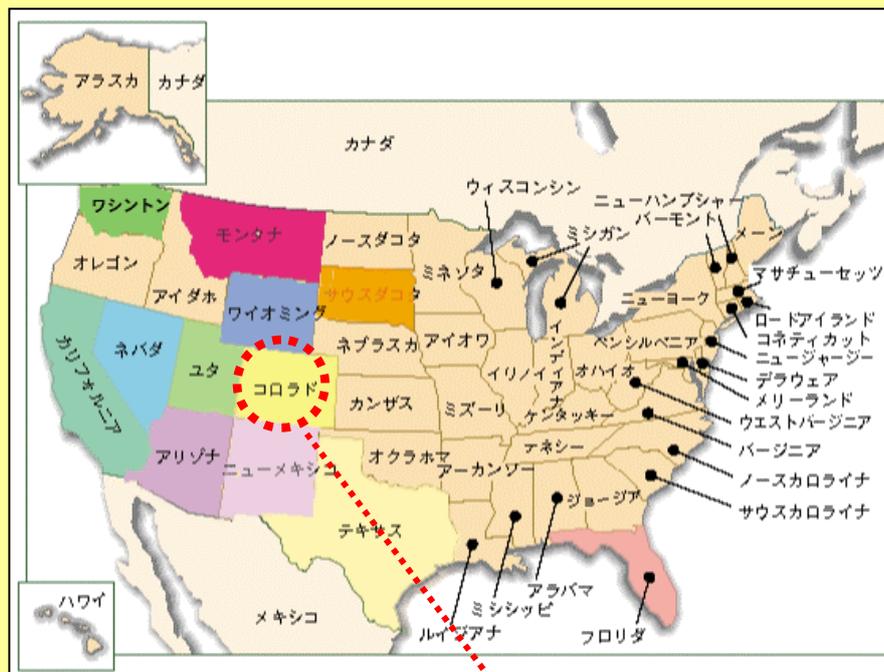
引率者氏名	ホストファミリー
鈴木 亮子	Norem and Magnuson Family
江口 和也	Masters and Hotchkiss Family

# アメリカ・グリーリー周辺地図



アメリカ合衆国  
United States of America

面積 9,629,021 平方 km  
人口 約 3 億 2 2 0 万人  
(「世界の統計 2016」総務省統計局)  
首都 ワシントンDC



コロラド州グリーリー市  
City of Greeley

面積 約 77.7 平方 km  
人口 96,540 人 (2013 年現在)





思い出の日記



## 6月11日~12日(宿泊研修)



初めての事前研修、これからどんなことをするのか、どんな仲間がいるのか期待と不安が混じっていました。最初の小川会長の話で、海外派遣への自覚と責任感が強くなりました。また、以前に守谷市の海外派遣に参加した先輩たちの話はどれもとても興味深く、期待がより一層大きくなりました。初顔合わせということもあり、みんな緊張しているようにみえましたが、自己

紹介や少しずつ会話を重ねていくうちに少し打ち解けあったような気がします。この事業に参加をしていなかったら関わる機会がない人たちなので、もっといろんな話をしてみたいと思いました。

その後、先輩方や守谷市国際交流協会の方とお好み焼きを食べながら、国際交流についての話を聞きました。国際交流協会の方の熱い思いを聞き、海外派遣の後もこの活動に参加したいと思いました。



第一回目の研修は宿泊研修だったのですが、研修2日目の朝はみんなで朝食をとった後、グリーリー市の人に守谷市のいいところを伝えられるようになるため、四季の里公園に行きました。その後、英語での会話の練習をしました。途中から特別講師のアンソニーさんに来ていただき、アメリカの文化や習慣、遊びなどさまざまなことを教えていただきました。昼食も一緒にとり、

その間もその後も多くのことを話しました。午後には、フェアウェルパーティーの話し合いと練習をしました。初対面の前日よりも積極的に意見が出て、これからもっと話がしやすくなっていくと思いました。(須藤佑斗)

## 6月28日(事前研修)



アメリカで何か問題が起きたとき、どのようにして伝えるかを全員で考えました。その後グループに分かれ、自分の家族を英語で紹介しました。みんな写真を用意し、わかりやすく紹介していました。午後には守谷在住の外国人の方々に来ていただきいろいろなお話をうかがいました。また、フェアウェルパーティーの内容詳細を決めたり、サンキューメッセージの作成を始めたりしました。2回目の

研修ということで、団員の仲も良くなり会話がたくさん飛び交っていました。(大宮琴奈)

## 7月10日(事前研修)

事前研修も残すところあと2回となり、じわじわと緊張感が漂っていました。現地で実際に読む予定のサンキューカードを読む練習をしました。中学生も頑張って感謝の気持ちを表す英文を考えて読んでいました。どうすればホストファミリーに気持ちが伝わるかを考えながらの練習が必要になります。



その後、フェアウェルパーティーの練習を本番同様のタイムスケジュールで通しました。最初は、どうなるかと不安でしたが大分完成に近づいてきて達成感があると同時に約二週間後アメリカに行く実感が湧いてきました。(齊藤緋里)

## 7月24日（事前研修）

ついに出発を四日後にひかえた7月24日、団員は最後の研修を行いました。添乗員の荒井さんが来て下さり、荷物の確認をしました。みんなスーツケースを持ってきて、今からまさに旅行に行くようでした。研修では各グループに分かれ、日本と守谷の紹介をしました。ジェスチャーを交えながら、日本と守谷の特徴や魅力を発表することができました。

午後はフェアウェルパーティーの練習です。ダンスも歌もカップスもみんな揃ってきました。あとは本番で成功させるだけ…！

アメリカでのお別れパーティーの出し物のリハーサルを日本で練習する最後の機会に各団員の保護者に見てもらうため公開リハーサルとしました。

1週間のホームステイを受けて入れくれたホストファミリーに向けた Thank you メッセージを読むシーンでは、現地のホストファミリーに向けて読む手紙とは別に、本日の公開リハーサルのためにサプライズで準備した、自分の親への感謝の気持ちの手紙を読み上げました。

普段は恥ずかしくて言えないことも伝えることが出来てよかったです。いよいよ4日後からホームステイ！出発が待ちきれません！！（永野礼菜）



## 7月28日（壮行会～成田空港～グリーリー）

いよいよ出発の日がやってきました。市役所での壮行会を終え、家族や職員の方々、市長さんなどたくさんの人たちに見送られ成田空港に向かいました。空港で手続きなどをした後に飛行機に搭乗し、ワクワクしながら日本を出発しました。機内では時差ボケをしないよう、寝て



いる人は少なく、皆映画を見たり宿題をしったりしながらアメリカ上陸までの長い時間を過ごしました。

そして10時間という長い時間を経てロサンゼルス空港に到着しました。

やっとアメリカについてなのです。皆の興奮は一気に高まりました。ワクワクしながらロサンゼルス空港で少し休憩した後、またロサンゼルス空港からデンバー空港へ行きました。そこからはグリーリーの市役所の方が迎えに来て下さり、バスでグリーリーまで行きました。初めて見るアメリカの景色や英語で書かれた看板に心を躍らされたことを覚えています。見るものすべてに興奮し、感動したアメリカ初日でした。(北島結菜)

## 7月29日 (ホームステイ1日目)



最初に北コロラド大学に行き、日本人の教授によるコミュニケーションについての講義を受けました。日本語を交えた楽しい講義で、とても興味深い話を聞くことができ、その後、バイキング形式の学食で食べました。

次に、家畜の品評会に行き、日本より大きいサイズの家畜や野菜を見ることができました。

その後はホストファミリーとの対面式。自分のファミリーがどんな人たちなのかはまだわからなかったのですが、とても楽しみでしたが、想像通りのいい人たちで良かったです。式が終わった後は、ファミリーと一緒に鉄道模型博物館に行き、グリーリーで開催されるアーツピクニックの前夜祭に行きました。前夜祭では、今回の派遣団の紹介をしてもらいました。

家に帰って部屋の紹介が一通り終わった後、日本からのお土産を渡したら、みんなとても喜んでくれ、出会った初日からたくさんコミュニケーションがとれたので、とても良かったです。(福岡芽依)

## 7月30日 (ホームステイ2日目)

ホームステイ二日目、私は最初ホストファミリーとアーツピクニックというお祭りに行きました。そこには日本と同じようにいろいろなお店がありましたが、特にハンドメイドの雑貨や服やアクセサリなどを売っているお店が多くありました。とてもかわい物ばかりで、お店を回っているだけで楽しかったです。さらにホストマザーがレモネードをごちそうしてくれてとても嬉しかったです。

次にサイクリングに行き、そのあとファミリーの親戚の方々とバーベキューをしました。サイクリングでは、終わりの見えないとても長いサイクリングロードを数時間こぎ続けました。とても大変でしたが、グリーリーの自然に触れたり動物を見かけたり、綺麗な夕焼けも見ることができたのでよかったです。バーベキューでは、親戚の方々とお肉を食べながらいろいろなお話をすることができました。とても楽しく充実した一日を過ごすことができました。その日の夜はよく眠ることができたのでよかったです。(久保田みなみ)



## 7月31日 (ホームステイ3日目)



ホームステイ3日目の午前中はホストマザーと同じ年の女の子のホストと一緒に Target や TJ Maxx というお店に行きました。どちらのお店も広くて午前中では全て回り切れないくらいでした。家に帰ってからベジバーガーという全て野菜でできているハンバーガーを食べました。思っていたよりもおいしかったです！そのあとは、Play-Doh という粘土を家族みんなで作りました。

そのあとにお兄ちゃんに誘われジムに行きました。ジムは日本でも行ったことがなかったので新鮮で楽しかったです。家に帰ると、ホストファミリーにポケモン GO をやりに行こうといわれて、北コロラド大学まで車で連れて行ってもらいました。UNC で通りすがりの人に気さくに話しかけられたりしてびっくりしましたが、アメリカっぽい体験をできたなと思いました。夜は焼きマシュマロとチョコをクッキーで挟

んだスモアというお菓子を食べました。忙しかったけど、充実した一日でした。(根来由依)

## 8月1日(ホームステイ4日目)

4日目、私はホストファミリーとミニゴルフとプールへ行きました。2つの施設は同じところにあり、1日中遊べます。ミニゴルフは初めてなので難しかったですが、楽しい仕掛けがたくさんあって面白かったです。ホストシスターは、とても上手でした。ゲームを通して話が弾んでうれしかったです。昼食は、BBQのバイキングでした。憧



れの本場のハンバーガーを食べることができて最高でした。クッキーやフルーツもおいしかったです。午後のプールは、公共のプールとは思えないほど広く、スライダーや水が降ってくる巨大バケツがありました。アイロンビーズやリリアンで遊べるスペースがあったので、プールの後にホストシスターといろいろ作りました。ホストシスターと仲を深められた1日でした。(大倉波奈)

## 8月2日(ホームステイ5日目)



ホームステイ最後の日です。この五日間を振り返ると本当にあっという間でした。この日はフェアウェルパーティー(お別れ会)で、私は朝からやる気満々でした。この日は、ホストファミリーと一緒に朝ごはんを食べて、10時にグリーリーの市役所に集合して皆で馬と触れ合いに行きました。午前中は皆で馬と触れ合いながら写真を撮ったり、お昼はショッピングモールに移動

したりしました。そしてそのまま買い物を楽しみました。

買い物が終わって午後はいよいよフェアウェルパーティーです！団長の鈴木さんは始めの挨拶からもう泣き始めていました。それから出し物のダンスやカップス、羽根つき、歌などホストファミリーの皆さんには楽しんでいただけたようです！

サンキューメッセージでは団員の皆もホストファミリーの皆さんも泣いていました。私も一生懸命手紙を書いたので伝わって良かったです！その後のプールも楽しかったです！！（長塚望愛）

## 8月3～4日（グリーンリー～守谷市役所 帰国報告会）

この日は集合が午前4時で、朝早いにもかかわらず全てのホストファミリーが時間通りに来てくれていて、心の温かさを感じました。お別れの時になり、僕は笑顔でお別れをしようと思いました。最後まで笑顔でいましたが、ホストファミリーが見えなくなるとホストファミリーと過ごした日々を思い出しながら泣いてしまいました。デンバー空港では、お世話になったアンドレアさんと最後のお別れをして飛行機に乗りました。飛行機では外を見たり、撮った写真を見て思い出を振り返ったりしながら過ごしました。その途中で、ふと空を見ていたら、いつでも空が明るかったことに驚きました。日本に帰ってきて飛行機を降りたら、日本独特の暑さと湿気を感じ、日本に帰ってきたんだな、ということを感じました。守谷に帰宅してからは、そのまま市役所で報告会を開きました。（松井颯音）



## 8月20日（事後研修会）



事後研修では、ホームステイ先での困ったことやハプニングを発表しあいました。困ったことやハプニングでは各家庭ならではの体験談を聞くことができました。その後の解散式では大平さんのスライドショーを見ながら話を聞き、1人ずつ今回の海外派遣についての感想などを発表し合いました。一緒に行った団員の話もすごく良かったのですが、鈴木さん、大平さん、江口さん、川崎さん、ルイーザさんの話がとても心に響きました。私たちが体験したことのないことやまだ知らなかったことをたくさん話してくれました。世界にはまだ知らないことがたくさんあることが分かったので、よりたくさんの方

面から世界を見ていきたいと思ったのと同時に世界の見方が変わりました。事後研修の後にはM I F Aの方々とバーベキューをしました。最後になりましたがこんなにも貴重な体験をさせていただきありがとうございました。(水口柚奈)

## 守谷市からのプレゼント「ひょうたん人形」



グリーリー市へのお土産には、守谷産のひょうたんで作られた置人形。ひょうたんは古来より幸福のシンボルとして扱われていて、守谷の地元の市民活動団体である守谷ひょうたんクラブに作成を依頼し、世界で一つだけのアメリカの女の子と日本の女の子の仲良し人形を作ってもらいました。

このひょうたん人形がグリーリー市と守谷市の友好な関係を守るお守りとなることを祈り、このひょうたん人形を贈りました。

## 派遣団員の報告書

大倉	波奈
松井	颯音
大宮	琴奈
福岡	芽依
長塚	望愛
北島	結菜
久保田	みなみ
須藤	佑斗
根来	由依
齊藤	緋里
永野	礼菜
水口	柚奈
鈴木	亮子
江口	和也

## 1 週間のホームステイを振り返って



守谷市立けやき台中学校 1年 大倉 波奈

私は、アメリカへホームステイに行く前から、ホストファミリーと何度もメールやラインでやりとりをしました。家族やロッキー山脈の写真を見せてもらえて、早くアメリカに行って会いたい気持ちが強まっていきました。

アメリカに行き、ホストファミリーとの対面直前では、会いたい気持ちと不安が入り混じっていましたが、そんな不安を打ち消してくれるくらい、明るく優しく接してくれました。



私がお世話になった家庭には子どもが二人いて、13歳の Aili は大人っぽくて同級生とは思えませんでした。10歳の Ena は猫っぽいフェイスペイントをしていて驚きました。

学校では少し得意の教科の英語が、あまり通じなくて悔しかったです。研修で教えてもらったことも、いざ使うとなると頭から消えてしまいました。それでも、分かる単語を使って頑張って話しました。大変でしたが、私が伝えたいことは、ホストファミリーが大体わかってくれて助かりました。どうしてもわからないところは、電子辞書で調べました。



今回のホームステイで一番心に残っているのは、ミュージカルに連れて行ってもらったことです。アメリカへの出発前から、ホストファミリーが計画してくれて、私はとても楽しみにしていました。会場は大学の中であり、体育館より少し大きくシンプルな造りでした。そのミュージカルは吸血鬼家族のコメディで、セリフは良くわかりませんでした、身ぶりが大げさで面白かったです。

4日目のプールとミニゴルフでは、ゲームで盛り上がり話がたくさんできました。プールでは、ホストシスターとたくさんスライダーに乗りました。Ailiは何度も乗りたがる私に付き合ってくれました。深いプールは怖かったけどなれると楽しかったです。



帰る日は朝4時集合でした。とても眠かったのですが、眠気よりも寂しい気持ちが勝り、空港へと向かうバスの中では眠れませんでした。本当に1週間があっという間でした。

次に、ホストファミリーに会う時には、もっと話せるようになりたいので、これから英語をたくさん勉強したいです。



## この先もずっと…

守谷市立守谷中学校 1年 松井 颯音

僕は、今回の海外派遣で生まれて初めて日本から出ました。初めは、「アメリカはどんな所なんだろう？」という期待と不安が半分半分ぐらいでした。

でも2日目、Looschen family と出会って不安は一瞬で打ち砕かれました。Mother と Father, そして同い年の



Carson が笑顔で僕とハグをしてくれて、「すごく素敵な家族だな！」と分かりました。その日は、一緒に列車博物館でピザを食べ、アーツピクニックというグリーリーのお祭りに行きました。ホストファミリーとは一緒ではなかったですが、U N C (University of Northern Colorado) という大学にも行きました。U N C はすごく大きく、中でも驚いたことは、大学内で乗り物を使って移動することです。アメリカの大きさを体で実感することができました。(歩いたらすごく疲れました。)|



3日目、家族とロッキーマウンテンのふもとにある Estes Park に行きました。そこではタッフィーという昔からあるキャンディーを食べたり、ハンバーガーを食べたり、スターバックスに行ったりしました。中でも思い出に残っているのが、ゴーカートに乗った

ことです。アメリカのゴーカートはレーンがないので、ゴーカート自体を自由に動かすことができ、初めは怖かったのですが、だんだん楽しくなってきました。

4日目、Mother が仕事だったので僕と Father と Carson と遊びに来てくれた Grand Mother と Grand Father と一緒にカーションーに行って Old fashion のハンバーガー屋さんに行きました。そのハンバーガーは絶品でした。Grand Father が「私は NASA で働いていたんだよ。」と話してくれ、プレゼントもくれました。「種子島 種子島」と何回も言っていたのには驚きましたが、とても印象に残りました。



5日目、少しずつ Looschen Family と過ごす時間が少なくなってきたのを感じた頃でした。この日はホームステイのメンバーとそのホストファミリーと一緒にミニゴルフをしたりプールに入ったりしました。ゴルフはすごく難しく、苦戦して時間がかかりました。プールは日本では考えられないような角度のウォータースライダーがあって思い出に残りました。



6日目、この日もホームステイのメンバーやそのホストファミリーの子ども達と一緒に馬に触ったり、ショッピングをしたりしました。夕方には感謝の気持ちを伝えるフェアウェルパーティーを開催しました。そこではダンスやカップスを披露したり、一緒に羽根つきをしたり

りました。ホストファミリーへ感謝の手紙を読んだ時は、「これでもうお別れなのか」という気持ちがこみあげてきて泣いてしまいました。そのあとは雨上がりのプールで泳いで遊びました。その夜は荷物をまとめながら泣いてしまいました。

7日目、いよいよ最終日。始まりは午前3時でした。4時からはお別れ会のようなものを行いました。Carsonも僕も泣いてしまいましたが、バスに乗ったら笑顔で手を振りました。日本に帰ってきて飛行機を降りたら、日本独特の暑さと湿気を感じました。



来年、Carsonが守谷に来てくれるかもしれないので、その時は僕がホストファミリーとして、自分がしてもらったようなたくさんの経験をさせてあげたいです。そして交流をこの先もずっと続けていきたいです。

僕は今回の海外派遣で色々な体験して、学ぶことができました。楽しい毎日をごさせたのは、Looschen family やたくさんの方々のおかげだと思います。ありがとうございました。Thank you very much.





## コミュニケーションをとる事は難しくない！

茗溪学園中学校 2年 大宮 琴奈

今回のホームステイは、私にとって初めての体験で今までにない緊張感がありました。そして貴重な体験でした。コロラドに着いてすぐ、驚くことがいくつもありました。信号の多さや、家畜の匂い、オイル工場やとうもろこし畑、守谷とは全く違う景色でした。

翌日は北コロラド大学に行き、“外国人と日本人がコミュニケーションをとる事が難しい理由”について学習しました。どうしたら日本人は外国人がうまくコミュニケーションすることができるのか、私なりの答えをグリーンリーで過ごす中で見つけたいと思いました。



その後 Haring Family と対面しました。楽しみ・わくわくと緊張・ドキドキで落ち着かない私に姉の Lauren がすぐに「Are you OK?」と声をかけてくれ、嬉しかったです。

ホームステイ 1 日目、水族館とモールに連れて行ってくれました。しかし、私の体調が悪くなりどちらも短時間しかいられませんでした。私は気持ち悪いということを手早く伝えられず、ホストマザーの Andrea にすごく心配させてしまいました。自分では簡単に伝わるとおもってもなかなか伝わらないこともあり、もっと勉強しておけばよかったです。

ホームステイ 2 日目、3 日目はアーツピクニックやファミリーファンプレックスに行きました。体調も良くなり、工作をしたり泳いだり、他のホストファミリーと一緒にバーベキューをしたり、とても楽しい時間を過ごしました。



そしてホストファミリーと過ごせる最後の日になりました。フェアウェルパーティーでは研修中一生懸命練習してきた出し物を発表しました。Thank you messageは泣かないで笑顔で思いを伝えられました。



グリーリーを出る朝、Andrea と Lauren、妹の Madison が空港まで見送りに来てくれました。嬉しかったけれど、別れが辛くてたまりませんでした。

ホストファミリーと過ごした4日間、本当に楽しく笑顔で過ごすことができました。お互いが思いやり、認め合うからそういった時間になったのだと思います。

「どうしたら日本人と外国人がうまくコミュニケーションをとることができるのか」についてですが、知ろうとする、伝えようとする、認めようとする、そういった気持ちがあればコミュニケーションは成立します。つまり、日本人が外国の人とうまくコミュニケーションをとるには気持ちが大切、ということが私なりの答えです。

私は、お世話になった Haring Family にもっといろいろな事を伝えたいし、知りたいたいと思うので、これからも Haring Family との交流を続けたいと思います。





## 素晴らしい経験

守谷市立けやき台中学校 2年 福岡 芽依

このホームステイは、とても楽しく、たくさんの経験と発見にあふれた7日間でした。10時間の長旅の末、待ちに待ったホストファミリーとの対面式。写真では見ていましたが、実際に会ってみるとイメージ通りの陽気な人たちで、これから始まるホームステイへの期待が高まりました。その後、鉄道模型博物館やアーツピクニックの前夜祭に行き、日本からのお土産も渡し、1日目からとても仲良くなれました。



ホームステイ中は、ロデオを見たり、クアーズフィールドに行ったりと、いろいろなところに連れて行ってくれて、どれも今までにない、素晴らしい経験でした。中でも一番印象に残ったことは、2日目に行ったロッキーマウンテン国立公園での崖登りです。ロッキーマウンテン国立公園は、自然がとてもきれいで、空気が澄んでいました。崖には、大きな湖の周りを歩いているときに登りました。

険しくて滑りやすい崖で、1度滑り落ちかけて「I can't!」と言ったら、ホストマザーが「You can!」と言ってくれたので、何度も滑りましたが、ホストファミリーと一緒に登り切ることができました。ひざとすねのたくさんの擦り傷ができていましたが、崖の上からの景色はどこよりもきれいで、達成感が湧き上がってきました。最後にホストファミリーとハイタッチをしたときは、今までの人生で1番最高の瞬間でした。





この研修の中で一番感じたことは、人の温かさです。どこに行っても「Hello!」や「Where are you from?」と話しかけてくれたり、目が合うと微笑んでくれたりして、日本ではなかなか体験できないことを経験できました。

こんな素敵な人たちにめぐりあえて、とても素敵な研修だったので、別れの時はとてもつらかったです。フェアウェルパーティーではみんな泣いていて、私もそれまでの思い出が頭をよぎり、涙が止まりませんでした。



最後の日、朝早く UNC まで送ってくれた時も、笑顔でお別れしようと思っていたのに、自然と泣いてしまいました。

この経験は、私にとって本当に大きな財産になりました。この研修に携わったすべての方々に感謝の気持ちを忘れずに、これからの人生に生かしていきたいです。



## 第二の故郷

守谷市立御所ヶ丘中学校 3年 長塚 望愛



デンバー空港に到着し、当然そこはアメリカなので、周りは英語でしか喋っていませんでした。その時点での私の気持ちは「ホストファミリーの人たちに早く会いたい」という期待半分、「英語話せるかな？相手の言っていること理解できるかな？」という不安半分でした。



二日目は北コロラド大学の見学、ウサギや鳥などの品評会を見て、午後にホストファミリーと会いました。私のホストマザーは日本人の方でした。初めは緊張してあんまりうまく喋れなくてファザーやシスターに気を遣わせてしまいました…。

さらにステイさせていただく家に着いてすぐに停電してしまい、その日は電気も復活しなかったので懐中電灯でシャワーを浴び、ヘッドライトを使って過ごしました。

ステイ中はホストシスターの Saffron と一緒にパンケーキを作ったり、ロックフェスに連れて行ってもらったり、色々な事をしました。そんな中で日本と違うなあ…と思ったことは、ロックフェスの盛り上がり方と親子の距離感です。





フェスの盛り上がり方はアメリカでも違いはあると思いますが、私が行ったところでは曲のサビに入ると押し合いが始まりました。日本では絶対にはないので少しビックリしました。

次に親子の距離感が日本と違うなと思った理由は、子どもが何か良いことをした時などに頬や額にキスをすることでした。これも日本の親子はしないなあと思ってビックリしました。



ホームステイの五日間で本当に色々な事を知りました。とても楽しかったです。お別れの日にはホストファミリーに「この笑顔に癒されるわ…またいつでも来てね！」と言われ思わず泣きそうになりました。

ここはもう私の第二の故郷です！！

これから高校生になってお金を貯めて絶対にまたホストファミリー会いに行きます！





## 『I LOVE GREELEY』

茨城県立水海道第一高等学校 1年 北島 結菜

「Welcome to America Yuna」グリーリーの市役所に入った瞬間、私の目に飛び込んできた文字です。私のホストファミリーであるクライレン家がそう書いてあるボードを持って私を迎えに来てくれたのです。



アメリカに行く前、私はワクワクしながらも「英語は通じるか」や「ホストファミリーと打ち解けるか」など、たくさんの不安や心配がありました。しかし、温かく迎え入れてくれたクライレン家のおかげで緊張は一気にほぐれ本当にホッとしました。

このホームステイでアメリカにいた時間はとても短かったけれど、本当に色々な事を学ばせてくれた密度の濃い時間でした。

私はホストファミリーと、ロッキー山脈に行きマーマットやシマリスにピーナッツをあげたこと、買い物で色々な物を買ってもらったこと、TCBYというアイス屋さんに行ったこと、教会に行き歌を歌ったり、沢山のひとと話したりしたこと、また、私が日本からのお土産で持って行った折り紙を長女のAllisonに気に入ってもらえ、夜遅くまで折り鶴を折ったことなどたくさんの素晴らしい思い出ができました。





私はうまく英語を話すことができませんでしたが、皆一生懸命に理解しようとしてくれました。伝えられないことも多かったけれど、言いたいことは理解してもらえた気がします。会話をする時に大切なのは英語力よりも、伝えようとする姿勢や気持ちだということが分かりました。たくさんの人々と出会い、たくさんの事を話し、私はグリーリーの温かさを熱いくらいに感じました。よく言われる「言葉は通じなくても心は通じ合える」とはこのことか！とわかった気がしました。

また、ホストファザーであるCurtis と日本やアメリカの文化の違いや、食文化、将来の事、仕事についてなど、たくさんの事を話したことで視野が広がり、自分が今までにいた世界はまだまだ小さいことに気がつきました。



このホームステイは、協力してくれた家族や研修でお世話になった方々、引率の方々、そして最高のホストファミリーによって、私に

たくさんの影響を与えてくれる大切なものとなりました。本当にありがとうございました。





## 宝物になった、海外での思い出

茨城県立下妻第一高等学校 1年 久保田みなみ

私は今回、守谷市の姉妹都市であるアメリカのグリーリー市に五日間のホームステイに行かせていただきました。最初は正直言って、海外に行くということに抵抗があり。あまり乗り気ではありませんでした。しかし、事前研修でアメリカの伝統や文化などを勉強していくにつれて、海外に行くということがとても楽しみになっていきました。そして当日、たくさんの不安と期待を抱えながらアメリカへと出発しました。



一日目は驚きの連続でした。アメリカに着いた途端に、日本の夏よりも断然涼しいなと感じました。他にも、どこのお店の店員さんも「How are you?」と聞いてきたりして前もって勉強していても、実際に体験してみるととても新鮮に感じました。

二日目は、ノーザンコロラド大学を見学しました。とにかく広くて唖然としてしまいました。一つ一つの施設も大きくて、寮にいたってはマンションのようでした。こんな素敵な大学で学んでみたいなと思いました。そして午後は、ホストファミリーである Betsy, Reina, Iris との対面式でした。これから仲良くなれるか少し不安でしたが、三人は温かく迎えてくれました。

三日目の一番の思い出は、引率者の江口さんのホストファミリーである Hannah の家でバーベキューをしたことです。一緒にお肉を食べ、色々なお話ができてとても楽しかったです。





四日目は、ロッキーマウンテンにハイキングに行きました。登るのは大変でしたが、素敵な景色を見られました。そのあと、近くの公園でショッピングをしました。チョコレートをいっぱい買えて良かったです。

最終日の五日目は、フェアウェルパーティーでダンスとカップスと歌とサンキューメッセージの発表をしました。そして歌っているときに感極まって泣いてしまいました。ファミリーも一緒に泣いてくれました。本当に、本当に最高の日を過ごせました。この体験は私にとって宝物になりました。将来またアメリカに行きたいという夢もできました。本当に充実した日々を過ごすことができました。グリーリー大好きです！！





## あつという間の一週間

茨城県立水海道第一高等学校 1年 須藤 佑斗

壮行会が終わってからアメリカまで期待で胸がいっぱいだったので、あまり覚えていません。グリーリー市について、グリーリー市の方と夕食をとり、ホテルに着いたら疲れてすぐに眠ってしまいました。アラームを4つかけましたが、それでも起きられずに、添乗員の方が部屋まで起こしに来るほど眠り込んでしまいました。



ホテルでの朝食は日本のとはもちろん違って、一つ一つがとても多かったです。その後にノーザンコロラド大学に連れてっていただきました。日本人講師による模擬授業はとても新鮮で、学校の授業では受けることのできない国際的なコミュニケーションについて考えるととてもいい機会になりました。大学内とは思えないほどキャンパスは広く開放感があり、「少しでもいいからこの大学に通ってみたい」と強く思いました。

午後にはついにホストファミリーと対面をしました。初対面でも笑顔で接して頂いたおかげで緊張はしなかったです。和食の話しながらコンサートに行きました。アメリカの人たちは歌に合わせて踊りだしたり、飛び跳ねたりと、日本では味わえないアメリカの陽気な雰囲気がとても面白かったです。ホストファミリーの家に行ったときに飲み物やお菓子などをたくさん用意していただき、とても嬉しく、ありがたく思いました。





ホームステイ1日目はロッキー国立公園に連れて行ってもらいました。日本にはない、本当に高い山で素晴らしい景色だけでなく、気持ちよかったです。2日目はアートピクニックに連れてっていただき、多くの人と話をすることができました。その翌日のファミリーパーティーやフェアウェルパーティーでも多くの交流をすることができました。

グリーリー市でのホームステイは短い間でしたが、この先一生できないようなとても貴重な体験が多くできました。その中でも一番大きいことは多くの人と出会えて、話げできたことだと思います。ホームステイ先の人はもちろん、グリーリー市の人々、派遣仲間や派遣仲間のホストファミリー、グリーリー市の職員の人、一緒にスポーツをした人など、とても多くの人達と交流ができたことは自分がこの先生きていく中で糧になっていくと思います。そして、自分が体験したことを守谷市の人々に伝えていくことが一番大切だと思います。





Loved it!!

茨城県立竹園高等学校 1年 根来 由依

ずっと楽しみにしていたグリーリーでのホームステイはあっという間に終わってしまいました。私は今回現地の英語に触れ、自分の力でどれくらいコミュニケーションが取れるのかと少し不安にも思っていました。見るもの全てが新鮮で感じていた不安も一瞬で消え去り、これからどんなことが体験できるのかとわくわくしていました。土地や家など全てが日本よりスケールが大きくびっくりしました。



私のホストファミリーは Christopher, Jane, Hunter, Addie でした。思っていたよりずっとウェルカムな雰囲気でした。家族全員がとても優しく、たくさん話しかけてくれて緊張がほぐれました。特に Addie は同い年の女の子で話が合い、仲良くなれました。

しかし、ホームステイの前半は会話になると自分の言いたいことがどのように言うのかわからず、受け身になってしまっていたことが多かったと反省し、後半は文法を気にするのではなく、単語などでなるべく自分の意志を伝えてコミュニケーションをとるように努力しました。





すると、ホストファミリーのことがよくわかるようになり、冗談などを言い合えるようにもなりました。初めは何か質問したりしないと、と思っていたのですが、実際はそうでなく、「It's cool.」とか「Sounds good.」など反応を示すことが大切だとわかりました。

そして、もう一つ大切だと思ったことは、せっかくこのようなチャンスを頂いているので、いろいろなことにチャレンジすべきだということです。私は、朝ごはんにオートミールを勧められ、オートミールが何かよくわからなかったのですが、食べてみました。今考えるとあのときチャレンジしていなかったら、オートミールが何だったかわからなかったらと思うので挑戦して良かったと思いました。



何もかもが楽しすぎて前日は寝るのも惜しかったので私と Addie で一晩中起きていました。それくらいグリーリーでの時間はかけがえのないものとなりました。この経験を忘れずに今後に活かしていきたいです。アメリカ大好きです！



わん!





## 人生が変わった一週間

茨城県立並木中等教育学校 5年 齊藤 緋里

「人生が変わる」私は正直この言葉を実感したことはありませんでした。しかし、今回の海外派遣は一週間という短い期間で文字通り私の人生を変えたと思います。アメリカではここには書ききれないくらい貴重な体験をしました。なので「英語を話すこと」と「帰国後の変化」について私の人生の変わりようをつづりたいと思います。



私は学校の授業などで英語を話すことが好きではありませんでした。自分の発音が間違っていたらどうしよう、文法も不安だし、とりあえず黙っておけばなんとかなる！と思っていました。しかし、アメリカは英語の授業とは違い、全て英語で伝えなければいけませんでした。

ホームについた初日は必要なときだけ口を開いていましたが、「アメリカでは初対面でも皆友達！」スタイル、また第一もっと話をしたいと思うようになったことによって、次第に自分から質問を投げかけ、思ったことをちゃんと言えるようになりました。こんなに英語でコミュニケーションがとれるんだ！と自分にびっくりするくらいに成長できたと思います。多分私の文法はめちゃくちゃだし、発音も悪かったけど「話そう」という姿勢が伝わったのだと思います。





日本では意識していなかった，“積極的に話すこと”をホームステイの1週間で心がけたので，帰国後も周りにいる友達や親にべらべら喋るようになりました。（笑）

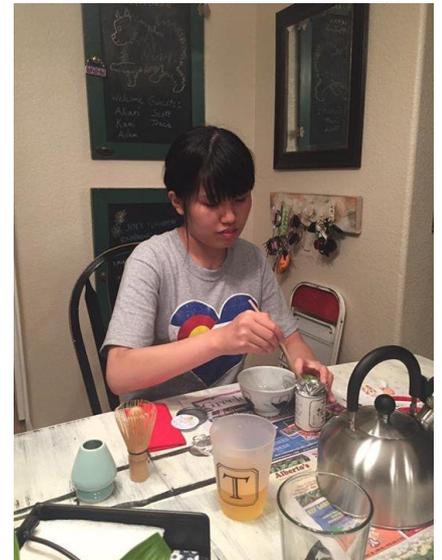
アメリカに行ったことで、自分に自信がついて何事もポジティブに考えるようになったからではないかと考えます。

帰国してからは日本に帰りたくなかったと思うくらいアメリカのことが大好きになり、そこに住んでいる人たちも大好きになりました。

また，同じように前より日本のことを大好きになり，自分の周りの環境を大切にしようと思うようになりました。

次は私の番です。

日本をどれだけ世界にアピールできるか、どれだけ好きになってもらえるか、これからも海外交流を通してたくさんのことをしていきたいと思いました。





What a wonderful time we had!!

茨城県立竹園高等学校 2年 永野 礼菜

私にとってはこれが初海外。飛行機の着陸の瞬間私は胸が高鳴りました。空港でグリーリー市役所の Andreaさんと Mariさんが出迎えてくれました。

そして次の日の夕方、ついにホストファミリーとの対面です。緊張していましたが、優しく話しかけてくれたのでとても安心しました。



18歳の Allie は、昨年守谷市でのホームステイを経験していたため、滞在中色々なところで私のサポートをしてくれました。本当に気遣いのある、優しい女の子です。彼女のおかげでこのホームステイが素晴らしいものになりました。

12歳の Becca は、最初はあまり話せなかったけれど、だんだん仲良くなっていきました。本当にかわいくて、私の妹になってもらいたいくらいです。

お母さんの Julie はとても温かく、本当のお母さんのようでした。彼女のおいしい料理と素敵な笑顔は忘れられません。祖母の Nana Barb は会った時からたくさん話しかけてくれました。私のことをよく気にかけてくれてうれしかったです。お父さんの Jeff と次女の Caelyn は今アイルランドにいて会うことができず残念でした。





ホストファミリーには ESTES PARK やアーツピクニック、アイスクリーム屋、コーヒーショップ、図書館など色々なところへ連れて行ってもらいました。滞在中一番楽しかったのは、家族と食事をしたり、毎晩映画を見たり、夜、かわいい犬二匹の散歩に出かけたことです。一緒に過ごした時間すべてが宝物です。

最後のフェアウェルパーティーでは別れが寂しくて、日本の歌を派遣団員全員で歌うシーンでは、初めのほうから泣いてしまいました。その他の出し物は何回もみんな練習したので、楽しんでもらえてよかったです。翌日は朝早くに出発しましたが、Julie に zucchini bread をもたせてもらい感動しました。



アメリカでの日々はあっという間に過ぎてしまい帰るのがつらく、ずっとここにいたいという気持ちで溢れていました。今回の海外派遣は私の生き方、考え方に大きな影響を与えるような最高に充実したものでした。このような貴重な経験ができたのも、研修からずっとお世話になった守谷市役所のみなさん、守谷市国際交流協会のみなさん、温かく迎えてくれたグリーリーの方々、アメリカへ送り出してくれた父、母のおかげです。本当にありがとうございました。





## 日本とアメリカ

東洋大学附属牛久高等学校 3年 水口 柚奈

私は今回アメリカに行かせていただいて、たくさんのことを学びました。言葉が伝わらない国でどうすれば自分の伝えたいことを伝えられるのか、生活の違いや文化の違いはどこにあるのか実際に自分自身の身で体験することが出来ました。



現地時間の7月29日にコロラド大学を見学しに行きました。コロラド大学はとても広くジムや体育館、美容院などの日本にはないものがたくさんありました。その他にも、寮があり寮の中でペットを飼ってよい、大学の中と一般の道路の間に柵がないなどルールの違いや日本にあるがアメリカにはないものもありました。

現地時間の29日の夕方にホストファミリーに会い、現地時間の30日には、同じ年のホストシスターの運転でドライブに行き、そのまま彼女の友達とボーリングをし、誕生日パーティーにも行きました。車を運転しているホストシスターとのドライブの道中では、目につく建物がどういう建物なのかを丁寧に教えてくれ、教会が多かったり、スーパーマーケットが大きかったりと日本との違いに気づくことができました。ボーリング場ではボーリングの他に様々なゲームをしましたので、アメリカの高校生の遊びを体験できました。





現地時間の31日にはデンバー動物園とバタフライパークに行きました。デンバー動物園はクジャクやアヒルが檻の外を歩いていたりゾウ専用の橋があったり、今まで見てきた動物園とは異なる点が多くありました。バタフライパークは食用の虫が売っていたり、大きな広場にたくさんの蝶々がいたり、日本では見たことのない珍しいものをたくさん見ることができました。

最後になりますがグリーンリーはとてもきれいな場所で野生の馬やリスがたくさんいました。最初は自分の英語が伝わるか不安でしたが、伝わらないことはジェスチャーで伝えられました。しかし、それはホストファミリーが簡単な単語や文法に直しながら話してくれたからだと思います。何もかも優しくしてくれたホストファミリーに感謝でいっぱい1週間でした。





## Greeley Unexpected!

守谷市国際交流協会 鈴木亮子

研修初日、まだぎこちない雰囲気の中の初顔合わせで、これから2016年の派遣団として進んでいくのだと、身が引き締まる思いがしたのを覚えています。出発までの研修は毎回、内容が濃く、団員に求められたことは決して簡単なものではありませんでした。



加えてフェアウェルパーティーでのパフォーマンスは、研修の回数も練習の時間も限られている中で、すべて自分達で作りあげなければならない「作品」でした。研修も受けながらで、大変な作業だったと思いますが、その過程で団結力が生まれていることも感じられました。とはいえ、正直なところ、本番でちゃんとできるのだろうかという不安は残ったまま、出発の日を迎えました。

加えてフェアウェルパーティーでのパフォーマンスは、研修の回数も練習の時間も限られている中で、すべて自分達で作りあげなければならない「作品」でした。研修も受けながらで、大変な作業だったと思いますが、その過程で団結力が生まれていることも感じられました。とはいえ、正直なところ、本番でちゃんとできるのだろうかという不安は残ったまま、出発の日を迎えました。



7月28日、無事グリーリーへ到着し、翌日の夕方からはそれぞれのホームステイ先での滞在となりました。外国で、たった一人で、初めて会う家族の中で生活することの大変さを心配しましたが、3日後に再会したメンバーは驚くほどの成長を見せていて、「自分の力でやりぬいた！」という自信が態度にあふれていました。私は、一人ひとりの持っている可能性を改めて認識することとなりました。

7月28日、無事グリーリーへ到着し、翌日の夕方からはそれぞれのホームステイ先での滞在となりました。外国で、たった一人で、初めて会う家族の中で生活することの大変さを心配しましたが、3日後に再会したメンバーは驚くほどの成長を見せていて、「自分の力でやりぬいた！」という自信が態度にあふれていました。私は、一人ひとりの持っている可能性を改めて認識することとなりました。



お世話になったグリーリーの人々からは、とても温かいおもてなしを受けました。私のホストファミリーの Ken と Sandy も、豊かな愛情と細やかな配慮で接してくれました。お互いの文化や暮らしについて語る中で、今後につながる友情を育むことができましたし、また、その姿勢からボランティアの真髓を学ばせてくれました。きっと団員全員が、それぞれのホストファミリーと特別な絆を持つことができたと思います。

そのホストファミリーの皆さんに、フェアウェルパーティーで、ブランクをもものともせずに見事なパフォーマンスを披露し、自分自身の感謝の言葉でグリーリー滞在を締めくくった団員を見て、出発前に私が感じていた不安や心配は、杞憂だったことを教えられました。「この子たちって、本当にすごい！」と思ったこのメンバーと、今後も関わりを持って、色々な活動を続けていければと願っています。

最後に、この派遣のためにご尽力をくださった皆さまに心から御礼申し上げます。また、引率として同行された江口さんには、常におおらかに構えた態度で安心感を与えていただき、添乗員の荒井さんには、常に色々目配りしていただき、感謝しています。そして、豊富な知識と経験を駆使して、厳しさとやさしさを織り交ぜながら、研修前から帰国後まで今年の派遣団を引っ張り続けてくださった市民協働推進課の大平さん、川崎さん、ルイーザさん、本当にありがとうございました。





## グリーリーでの出会い

引率者 守谷市役所財政課 江口 和也

私たち青少年海外派遣団は、中高生12名と引率者2名で姉妹都市グリーリーへと旅立ちました。この日のためにたくさんの研修や準備を行ってきた子どもたちは期待と不安が入り混じっている様子でした。

経由地のロサンゼルス空港に降り立った時から、既にそこは別世界でした。長時間のフライト後に関わらず、日本とは全く違った景色の外観・お店・人々に子ども達はとても興奮していました。その後現地のデンバー空港でグリーリー市の職員さんに迎え入れられホテルで1日目を終えました。グリーリーの街並みはとても自然が豊かで、ゆったりとした時間が流れている印象でした。緑が多くて住みやすいという点で、守谷市と似ている部分も多いと思います。

2日目からはいよいよ現地での活動です。北コロラド大学の見学ツアーでは、大学の職員の方々や学生の皆様に案内をしてもらいました。北コロラド大学はとても大きく、日本では考えられないような設備が揃っていました。このツアーで留学への憧れを持った子ども達も多く、数年後には団員の中から北コロラド大学の学生が誕生するかもしれません。また、現地には日本出身の教員の方もおり、特別講義をしてくれました。一足先のキャンパスデビューはとても良い思い出になったと思います。夕方にはいよいよホストファミリーとの対面式です。各自、グリーリーに来る前からメールでのやり取りを行ってきましたが、やはり初対面ではとても緊張しているのが印象的でした。私のホストファミリーである Hannah・Jed 夫妻は想像どおりのとても優しい2人で安心しました。



週末の3日目と4日目はそれぞれのホストファミリーとの時間でした。私自身、アメリカへ行くのが初めてだったことに加え、今まで海外に行ったのは観光地への旅行のみだったので、ホームステイ先での時間は全てが新鮮で刺激的でした。食事に関しては、Hannah と Jed がいろいろなものを作ってくれました。パンケーキやビーフシチューなど、毎食本当に美味しく、和食が恋しくなった時のためにと持参したインスタントみそ汁は、最後まで出番がありませんでした。また、伝統的なハンバーガーショップやコロラド料理のレストランにも連れていってもらい、堪能することが出来ました。3日目の夜には2人の親や兄弟など、たくさんの家族を家に招待して、バーベキューを開いてくれました。ここでも2人のたくさんの家族と知

り合い、お互いについて話すことができ、とてもうれしかったです。翌日にはロッキーマウンテンへ連れて行ってもらい、日本では目にすることができないような壮大な山脈の景色に圧倒されました。この3日目と4日目については、団員たちは完全なる別行動でしたので、日本人は自分しかおらず、英語やジェスチャー等でしか意思疎通ができないという環境でした。12人の子どもたちは

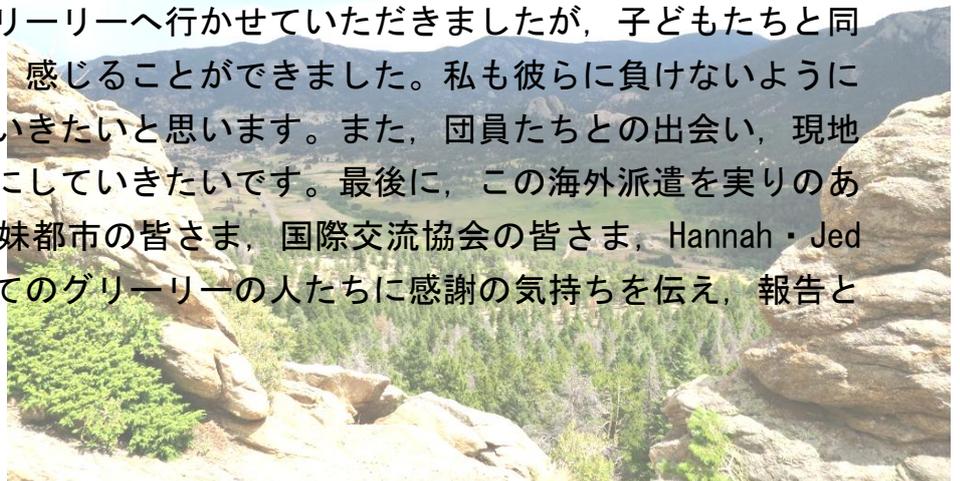


ホームステイの経験がある子から英語を学び始めて間もない子まで様々でしたので、うまくやっていたか不安でしたが、5日目に再開した際の堂々とした表情を見て、一瞬で杞憂だったと思いました。私自身の学生時代を思い返してみると、彼らの度胸や積極性というものは本当にすごいものだと思います。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、家族と過ごす最後の日、フェアウェルパーティーが開かれました。いろいろと不安な面もありましたが、日本での一生懸命な練習が実り、ダンスや羽つきをしたり、歌を歌ったりと、パフォーマンスは大成功に終わりました。サンキューメッセージでは私を含め全団員がしっかりと感謝の気持ちを伝えることが出来ました。出発の朝、皆涙ながらにホストファミリーとの別れをし、日本へ帰りました。一週間という短い期間でしたが、私を本当の家族のように受け入れてくれた Hannah・Jed と別れるのはとても寂しく、辛いものでした。

実はこの海外派遣にあたって、日本での研修の時から、子どもたちのおとなしさ・内気な部分が不安要素でした。しかし、この一週間で彼らは見事に殻を打ち破り、積極的にコミュニケーションを取ることが出来るようになりました。表情や行動からも明らかな変化を感じ取ることができ、その成長力に驚かされました。帰国後の報告会等で、子どもたちは一様に、完璧な文法や発音で英語を話すことが出来なくても問題はなく、大事なものは伝えようとする気持ちだという旨の感想を話していました。それを実践し、ホストファミリーと友好関係を築くことが出来た子どもたちは、きっと守谷とグリーリー及び世界との架け橋になってくれるものだと思います。

私は引率という立場でグリーリーへ行かせていただきましたが、子どもたちと同様にたくさんのことを学び、感じる事ができました。私も彼らに負けないようにこの貴重な体験を活かしていきたいと思います。また、団員たちとの出会い、現地での人々との出会いを大切にしていきたいです。最後に、この海外派遣を実りのあるものにして下さった両姉妹都市の皆さま、国際交流協会の皆さま、Hannah・Jed 夫妻や関わって下さった全てのグリーリーの人たちに感謝の気持ちを伝え、報告とさせていただきます。



## 編集後記

今回で26回目となる守谷市青少年海外派遣事業は、アメリカ コロラド州のグリーリー市に行きました。海外に行くことが初めての団員が多く、アメリカの生活に直に触れる機会を得ることができた本事業は驚き、不安、感動など様々な体験の機会になったと思います。

今年度の団員の皆さんは、研修を数回重ねるまでは、イエス・ノーが言えない『シャイ』な子どもたちで、研修当初はアメリカでの1週間を自分の力で無事に生き抜くことができるか、と心配になったことを昨日のこのように思い出します。

しかし、研修を重ねるごとに少しずつ積極性を見せ始めた各団員は、フェアウェルパーティー（お別れパーティー）の出し物や英語の練習を一生懸命に取り組んだこともあり、ホームステイの期間中にかけてあげのない思い出ができたようです。

帰国後の事後研修では、「コミュニケーションに必要なのは伝えようとする気持ち！」と口をそろえて話してくれた皆さんの顔つきは、自己表現ができなかった海外派遣前と比較し、逞しく成長した顔つきになっていました。

派遣後は、アメリカ コロラド州とは別の国際姉妹都市であるドイツ バイエルン州マインブルク市の訪問団が守谷市に訪れた際にMIFA（守谷市国際交流協会）の協力を得て実施した、日本文化体験に積極的に参加をするなど、守谷市の国際交流の担い手として活動を始めており、今後も地域国際化を支える人材となってくれるように期待しています。

今回、アメリカに行った派遣団員の皆さんには、平成28年度派遣団員の仲間や引率者はもちろんのこと、遠く離れたアメリカ コロラド州グリーリー市のホストファミリーやそこで関わった人との繋がりを大切にしてほしいと思います。

そしてこの事業で経験した全てのことを心に刻み、これからの進路や将来に向けて役立てていただき活躍されることを祈っています。

最後になりましたが、事業全般において御尽力いただきました、鈴木団長をはじめとする守谷市国際交流協会の皆様、市内在住の外国人の皆様、その他関係者各位に心から感謝申し上げます。

守谷市役所 生活経済部 市民協働推進課